

2022年11月4日

各 位

会社名 株式会社タカミヤ  
 代表者名 代表取締役会長兼社長 高宮一雅  
 (コード番号2445 東証プライム市場)  
 問合せ先 取締役兼常務執行役員  
 経営戦略本部長 安田秀樹  
 (TEL. 06-6375-3918)

### 業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、最近の業績の動向等を踏まえ、2022年5月12日に公表いたしました2023年3月期第2四半期(累計)の業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

### 記

#### 1. 連結業績予想数値の修正

2023年3月期第2四半期(累計)連結業績予想数値の修正(2022年4月1日～2022年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	21,600	650	600	350	7.51
今回修正予想(B)	19,790	760	1,130	740	15.89
増減額(B-A)	△1,810	110	530	390	
増減率(%)	△8.4%	16.9%	88.3%	111.4%	
(ご参考)前期第2四半期実績 (2022年3月期第2四半期)	20,023	759	896	270	5.81

#### 2. 修正の理由

当第2四半期連結累計期間におきまして、販売事業においては、「Iqシステム」に対する関心は依然高く、新規調達、入替及び追加購入案件ともに引合いは堅調に推移しました。物価上昇により、顧客のレンタルへの依存が高く、一部で購入時期の延期等の動きが見られ、販売売上は伸び悩みました。レンタル事業においては、首都圏の維持修繕工事を中心に、「Iqシステム」の貸出量が堅調に推移し、土木分野では一部着工の延期はあるものの、土木工事用機材の貸出量は増加しております。海外事業においては、韓国での販売、レンタル事業共に順調に推移しました。また、販管費の抑制に努め、販管費計画を下回りました。これらの結果、営業利益は当初の予想を上回る見込みとなりました。

経常利益は、海外子会社へのグループ貸付金に対する評価替えによるもので、円安の動向が継続したため、為替差益の計上となり、当初の予想を大きく上回る見込みとなりました。

以上の理由により、当第2四半期累計期間業績につきまして、売上高、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益を修正いたします。

なお、2023年3月期通期連結業績予想数値につきましては、原材料価格の高騰、為替相場の変動など、将来における不確実性等を勘案し、2022年5月12日に公表しました業績予想数値を据え置くことといたします。

(注) 上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以上